



令和5年度（2023年度）くまもと県民カレッジ

キャンパスパレア

日時 2023年8月7日（月）14:00～15:30
場所 くまもと県民交流館パレア10階 会議室7

基礎から学ぶ薬用植物の話

講師 熊本大学特任助教 ハリ プラサデウ デブコタ 先生

講師紹介

ネパールのボカラ大学薬学部卒業後大学助教、薬剤師として勤務。
2007年熊本大学大学院薬学教育部研究生として来熊。
現在、熊本大学大学教育統括管理運営機構（薬学部 機器分析学分野）在職。

自然と健康

私たち人間は、太古から身近な植物を生活に利用してきました。健康の維持、病気やけがの治療の際に、薬や薬の原料として利用されてきた植物を薬用植物と言います。薬用植物は、私たち祖先の経験に基づいて集約・伝承されてきた人類の貴重な財産です。

健康とは、病気ではないだけでなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にも、全てが満たされた状態にあることを言います。

薬用植物

薬となる植物のこと。飲んで元気になるだけでなく食材や香りを嗅いで元気になることなどでも使う。葉・茎・樹皮・果実・種子・根どこを使っても良い。

生薬

薬用植物の中の、薬として使う部位。葉・茎・根を乾燥させたものが多い。植物が9割。1割は植物以外で動物や鉱物。セミの抜け殻「蟬退（センタイ）」、カキの殻「牡蠣（ボレイ）」、「石膏（セッコウ）」、シナヒキガエルの毒「蟾酥（センソ）」等々。

漢方薬

*漢方医学の理論にのっとった診断が必要である。
*テレビなどの紹介では、生薬と漢方薬を混同されていることが多い。
*漢方では、通常数種類から10数種類の生薬が配合されている。
*漢方薬は工場で煎じられ粉末にされた「エキス剤」が主流となっているが、現在でも刻み生薬を家庭で煎じて利用されることもある。

例えば 葛根湯の配合生薬は7種

⇒①シナニッケイの樹皮②ショウガの根茎③クズの根④マオウの茎⑤シャクヤクの根⑥ナツメの果肉⑦カンゾウの根

民間薬

民間で伝承された薬物のこと。漢方薬とは違い、理論に基づいたものではなく代々伝わっているもので、一つ一つ使用する。

センブリ（消化不良に煎じて飲む）ドクダミ（できものに汁を塗る）ゲンノショウコ（下痢に煎じて飲む）



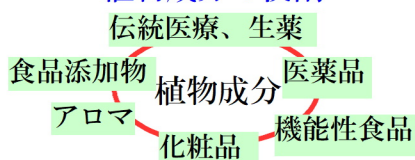
受講風景



湯と散と丸

湯 生薬を煎じた液
葛根湯・芍薬甘草湯
散 生薬を細かく砕いた粉末
防風通聖散
丸 粉末を蜂蜜等で固めた丸薬
八味地黄丸
最近エキス顆粒をよく見かける

植物成分の役割



植物由来の医薬品

薬用植物は伝統的に利用されているだけでなく、新薬開発にも大きく貢献している！

ヤナギ（アスピリン）解熱鎮痛剤
シナマオウ（エフェドリン）咳止風邪薬
ニチニチソウ（ピンブラスチン）抗癌剤

世界の伝統医学

西洋医療が発展した現代においても、世界中で特に発展途上国で、伝統医療が主な医療になっている理由とは

*多くの伝統医療はその地域の歴史、宗教及び文化と密接に結びつき、生活に深く根付いている。
*発展途上国では経済的理由により先端医療が普及しておらず、伝統医療が主流。

世界の80%以上の人々が伝統医療で治療を行っている。

植物由来の生薬を使うことが多い。

48万以上の植物種のうち、2万8千種が薬用植物として用いられている。

アユールヴェーダ医学（インド医学）・中医学・ユナニ伝統医学などの他、世界には多数の伝統医学がある。

日本の漢方薬の課題 漢方製剤等の原料の8割は中国から輸入しているが、中国産の価格の上昇や国際情勢等の変化で輸入できなくなった場合どうするか？ **他の国で栽培、輸入できないか？**⇒熊本薬学部では**海外の植物調査・機能性成分研究・世界の伝統医療調査及び国際共同研究**等を行うことで貢献しています。

薬用植物採集にあたって

- ①似た植物に注意する 毒性の植物有
スマホのカメラ機能で撮影しての安易な検索は
- ②植物部位と採集時期

根：植物が休眠している晩秋から冬
樹皮：梅雨の時期
地上部：開花期
茎、葉：葉が青く充実している初夏から夏
花：開花直前
果実：未熟期または完熟期に採取するものがある



ハリ先生ご持参の
サンショウ・シャクヤク・
サフラン・ウイキョウ・
ケイヒ・カッコン（左から）

- ③必要以上に採集しない
- ④禁止区域で採集しない
- ⑤採集後の乾燥・保存

植物によって異なるが多くの植物は乾燥して貯蔵し、必要に応じて利用する

熊大薬草パークに行こう！ 一般にも公開散策できます

熊大薬学部大江キャンパス（中央区大江本町5-1）
薬用植物園

7000㎡の規模で、希少植物及び希少薬用植物などを含め2000種余りを育種しています。

薬草ミュージアム伝統薬資料室

産業イノベーションラボラトリー1階に、世界の伝統・伝承医学で用いられる植物の標本類が展示されています。

その他観察会なども年に数回企画されています。

フェルメールの絵画が展示されている場所もあり、講義や会議中などに重ならないければ鑑賞できます。

ホームページにアクセスして、薬用植物のデータベースも検索ができます。